事務局便り

令和７年 10 月 10 日

―令和７年度　第 75 回研究大会　盛会にて終了―

・**オンライン参加 84 名、会場参加 83 名の合計 167 名の参加で盛会にて終了**いたしました。今年は、会場参加の希望が多く、締め切りの 10 日前に会場参加の申し込みを終了し、会場は満席の研究大会となりました。オンライン参加者が昨年より減少し、対面での研修を希望する参加者が多いことがわかりました。多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

・今年も、**理事会・総会**を開催することができました。今年の理事会も、会場のみで実施させていただきましたが、9 名のご参加がありました。理事会・総会の議長を福島県立二本松実業高等学校の鈴木砂代子先生と福岡県立中間高等学校の長岡えり子先生に務めていただきました。ありがとうございました。

・そして、**第 75 回全国家庭科教育協会研究大会　決議**を満場一致で採択しました。今回は、中学校技術・家庭科の分離問題があるため、焦点を絞った決議となりました。

・**参加者アンケート結果**を、**本協会ホームページに掲載**しました。吹き出しで回答を入れています。今後も皆様の意見を参考にしながら、参加したくなる研究大会・研修会を運営したいと思います。

・今大会での研究発表は、**「研究集録」**に収められております。年間指導計画をはじめとする参考になる資料が掲載されています。**一冊 1,000 円（送料別）**でお分けいたします。本協会ホームページの「出版物頒布」サイトから、または、お電話・メールにて事務局までご連絡ください。

―令和８年度　第７６回研究大会　開催日　予定に入れてください！―

令和 8 年度の第 76 回研究大会について準備を始めました。講演講師、校種別研修会の講師が以下のように決まりました！ご予定に入れて、ぜひご参加ください！

日程：令和 8 年 8 月 4 日（火）　5 日（水）の 2 日間
方法：ハイフレックス型開催　　会　場：家庭クラブ会館 2 階
日程：４日（火）午前-小中高関連の研究発表・講評　昼休み-理事会
午後-総会、講演　美馬のゆり先生
５日（水）午前-小中学校及び高等学校の研究発表　午後-校種別研修会
講師：小中学校部会　群馬大学 中里真一先生
高等学校部会　厚生労働省年金局　菊地英明様

―令和 10 年度第 78 回研究大会 研究発表者募集！―

第 78 回の研究発表者を募集いたします！自分のやってみたい授業実践研究を２年間かけて行い、その成果を研究大会で発表してみませんか？なお、毎年研究発表者には、ライオン賞として資料代一人６万円程度のお渡しもありますので、ご応募をご検討ください！詳細は、同封のチラシをご覧ください！

なお、令和 9 年度第 77 回大会の公募では、小中高関連の発表者の応募がありませんでした。第 77 回大会は、別時程で開催予定です。

―お詫びと修正―　お送りした機関誌ｐ３２に誤りがありました。申し訳ございません。

（歳入）（歳出）令和５年度→令和６年度　令和６年度予算額→令和７年度予算額

―令和７年度春期研修会の開催について―

本年度の春期研修会は、以下のように決め、準備を始めました。次号の ZKK 機関誌家庭科 4 号送付時に詳しいご案内をいたします。夏期研修会のアンケートで「住生活の研修会を」というご意見をいただき実現いたしました。そして、周年誌等の記録を確認したところ、ZKK の研修会で、住生活学習の研修会は初めてのようです。

なお、今回は、会場参加とオンライン参加で参加費を分け、午後のグループワークは会場中心で実施予定です。ご参加できるよう予定に入れておいてください。

令和 8 年 3 月 27 日（金）　ハイフレックス型開催　会場：家庭クラブ会館 2 階
内容：住生活関連　　講師：学習院大学 非常勤講師　勝田映子先生

―中学校技術・家庭科の分離問題について　中教審情報―

すでにご存じの方も多いと思いますが、令和 7 年 9 月 25 日開催の中央教育課程審議会初等中等教育分科会教育課程部会(135 回)において「現在の技術・家庭科については、教員免許、担当教員は別であるが、成績評価の際は 1 つの教科として記載していること等に伴うデメリットも大きいため、<u>家庭科と情報・技術（仮称）の二つの教科に分離</u>すべき」と資料 1（p50）に書かれ説明がありました。今後、ワーキンググループ（WG）に分かれてより詳細に議論されます。今回から、WG は技術科と一緒ではなく**「家庭WG」**となり、10 月 2 日に第 1 回目が開催されました。第 2 回は 10 月 29 日 15:30～開催予定です。文部科学省の HP から傍聴申し込みが可能です。家庭科教育充実のために、環境整備（時間数・人的問題）が改善することを願うばかりです。

シリーズ～全国家庭科教育協会の歴史～（6）　ZKK 企画・編集の教材 ③ZKK 型紙の活用法　洋裁の基礎編　家庭一般型紙の活用法

前号では「料理のてほどき」（1952 年 10 月発行）の次に古い「ピクチュア・フード」（1958 年 4 月発行)を紹介したが、もっと古い以下 3 冊が事務局書棚の奥から発見された。①「ZKK 型紙の活用法」（1954 年 8 月発行)②「増補改訂　洋裁の基礎編」（1955 年 4 月発行　実物は 27 版）③「家庭一般用　型紙の活用法」（1956 年 3 月発行)である。柴静子先生は、1952 年 3 月に『わが国で初めて作られたかり縫いのできる型紙』が本協会から発行（残念ながらその実物は事務局からは発見できず）され、さらに①「ZKK 型紙の活用法」が発行されたことで、「高等学校の被服学習への型紙の浸透が一層図られた」と評価している[1)]。文教書院発行、①60 円②180 円③75 円で販売されていた。いずれも文部事務官の山本キク氏が、最初のページに言葉をのせている。「尊い生涯をほんとうに有効に過ごすために型紙を使いましょう」と述べ、洋服洋裁の能率化をすすめている。③の「家庭一般用」とあるのは、高等学校「家庭一般」という教科名のことで、その被服学習の副読本として作られている。

①　②　③

1）機関誌「家庭科」No630・62 巻 平成 25（2013）年 1 月 10 日発行　柴静子「占領下日本における家庭科教育の成立と展開(第 3 回)―既製型紙の導入による高等学校被服教育の革新―」 p 17